

事業所名		プロッサムジュニア 北島教室 (放課後等デイサービス)		支援プログラム		作成日		2025 年		7 月		25 日			
法人（事業所）理念				えがおで咲かせる、ひとりひとりの「できるよろこび」				営業時間		9時から18時					
支援方針				・ 集団療育プログラムのほかに、個別療育プログラムを用意し、その日の「出来た！」を連絡帳で見える化（感覚統合・SST・知育・運動・ごっこ遊び等多岐にわたります。） ・ 他者のかかわりを重点に、コミュニケーション能力やルールを吸収する力を充実させます。 ・ 音楽や体操、絵本などの遊びを通して情操を豊かにします。 ・ 「サービス」ではなく「ホスピタリティ」でお子様に寄り添います。				送迎実施の有無		あり なし					
				ねらい				支援内容				具体的な活動や支援内容			
健康・生活				(a) 健康状態の維持・改善 (b) 生活のリズムや生活習慣の形成 (c) 基本の生活スキルの獲得				(a) 健康状態の把握 健康な心と体を持つ自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、健康状態の常なるチェックと必要な対応を行う。その際、愚息表示が前提であるお子さまの療育の特性及び発達過程、特性等に配慮し、小さなサインから心身の異変に気づけるよう、さめ細かな観察を行う。 (b) 健康の増進 睡眠、食事、排便等の基本的な生活のリズムを身に付けられるよう支援する。また、健康な生活の基本となる食を営む力の育成に努めるとともに、美しく食事ができるよう、口唇内機能・感覚等に配慮しながら、咀嚼・嚥下、姿勢保持、自励具等に関する支援を行う。さらに、病気の予防や安全への配慮を行う。 (c) リハビリテーションの実施 日常生活や社会生活をめぐる、それそれぞれのお子さまに適した身体的、精神的、社会的訓練を行う。 (d) 基本的生活スキルの獲得 身の回りを清潔にし、清潔な衣服の着脱、排便等の生活に必要な基本的技能を獲得できるように支援する。 (e) 構造化等により生活環境を整える 生活の中で、さまざまな遊びを通して学習できるように環境を整える。また、障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。				[例] ・ 本所にて体温測定を行い、健康状態を確認します。毎朝の会では、健康状態や日ごとの確認と共に今日のスケジュールの確認をすることで見通しを持った活動を行います。困り感がある際は、気持ちの絵カードや言葉のモデルを示し、自分で表現できるよう支援します。また、日常生活に必要なスキル（食事、排泄、着替えなど）の習得を支援し、教室の目標に慣れ、生活リズムを整えるよう配慮します。			
運動・感覚				(a) 姿勢と運動、動作の向上 (b) 姿勢と運動、動作の補助的手段の活用 (c) 保持する感覚の総合的な活用				(a) 姿勢と運動・動作の基本的技能の向上 日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び首肩、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。 (b) 姿勢保持と運動、動作の補助的手段の活用 姿勢の保持や各体の運動、動作が困難な場合、姿勢保持装置など、様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれらができるように支援する。 (c) 身体の前運動能力の向上 自力での身体移動や歩行、歩行器等のいすによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上のための支援を行う。 (d) 保持する感覚の活用 保持する感覚、聴覚、知覚等の感覚を十分に活用できるように、遊び等を通して支援する。 (e) 感覚の補助及び代行手段の活用 保持する感覚を活用して日常生活を円滑にするよう眼鏡や補聴器等の各種の補助機器を活用できるように支援する。 (f) 感覚の特性（感覚の過敏や鈍感）への対応 感覚や認知の振り、（感覚の過敏や鈍感）を踏まえ、感覚の振りに対する環境調整等の支援を行う。				全身を遊びを通して動かすことにより、日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動能力の向上を目指す。サーキットなどの異なる運動や動作を組み合わせた活動を通して、筋力、持久力、柔軟性などの運動能力を高めます。注意して取り組んだり、集中して取り組めるような環境を整え、楽しく取り組めるよう支援を行います。 色や形の異なるブロックや絵本などの教材を用いて、視覚的に理解する力の向上を促します。 音を使った活動、リズムに合わせて体を動かしたり、音を聞き分けたりする活動を通して、美しい活動の中で働くことや聴いて理解する力を促進します。 [例] ・ 「バランスストーンやトンボリボン、バランスボールなどを使って（バランス感覚や体幹を鍛える。 ・ 姿勢保持が課題の児童には、足元にバランスクッションを置いて刺激を与えて姿勢保持をサポートしたり、ボディイメージが課題の児童にはシールを衣服に貼って触った箇所を触ったり、シールを剥がすなどの活動を行う。 ・ 集団療育では様々な活動を通して前運動能力、ボール運動を通じた粗大運動に取り組んでいる。			
認知・行動				(a) 認知の発達と行動の習得 (b) 空間、時間、数量の概念形成の獲得 (c) 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得				(a) 感覚や認知の活用 視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援を行う。 (b) 知覚から行動への認知過程の発達 知覚の情報を正確にし、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。 (c) 認知や行動の手帳からとなる概念の形成 物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手帳からとして活用できるように促す。 (d) 数量、大小、色の習得 数量、形の大小で、量、色の違いの獲得のための支援を行う。 (e) 認知の振りの対応 認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるように支援し、認知の振りの等々の特性に配慮する。また、こだわりや偏見等に対する支援を行う。 (f) 行動調整への予後及び対応 感覚や認知の振り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切な行動への対応の支援を行う。				買い物やクッキングを通してお金の使い方や計算、時間の管理などを学ぶ機会を提供します。絵本や歌、パズル、時間を計るゲームを使い、楽しみながら空間・時間、数の概念を学び、深めます。お子さまが自ら問題を解決する機会を与え、教材や教具を用いて視覚的に理解しやすい支援を行います。 [例] ・ 時間のコントロールができるように順番や交換、「貸して」と言葉で伝えるなどの手立てを練習する。 ・ 一対一で練習することで、「貸して」と伝えたら必ず貸してもらえる環境や少し待てば順番が回ってくる環境の中で練習を行い、言葉で伝えるスキルや相手のタイミングに合わせて、元の見通しを立てて順番を待つ等のスキルの定着を図り、時間のコントロール方法を学んでいく。			
言語コミュニケーション				(a) 言語の形成と活用 (b) 会話の発話及び発出 (c) コミュニケーションの基礎的能力の向上 (d) コミュニケーション手段の選択と活用				(a) 言語の形成と活用 具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を行う。 (b) 受容言語と発話能力の発達 話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意思を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し、表出する支援を行う。 (c) 人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 個々に配慮された場面における人との相互作用を通して、共同注意の獲得を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。 (d) 指差し、身振り、サイン等の活用 指差し、身振り、サイン等を用いて、意思の理解と意思の伝達ができるよう支援する。 (e) 読み書き能力の向上のための支援 読書習慣のお子さまなど、職業の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。 (f) コミュニケーション機能の活用 各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を選択し選択、活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるように支援する。				お子さまの興味や発達段階に合わせて、職員が意図を理解し応答しながら、遊びややりとりを通じて人への関心を広げます。教員やジェスチャー、視線などを使ったコミュニケーションを支援し、実際に物を見たり触れたりしながらことばの理解を深めます。歌やリズム、ゲームを通して楽しくことばを学べる環境を提供し、日常会話や活動で新しいことばや概念を学ぶ機会をつくり出します。また、「貸して」「いっしょに遊ぶ」などのやりとりを練習する場を設け、職員が見本を示しながら支援します。 [例] ・ 個別療育を通して様々な気持ちの理解や自分の気持ちの表出方法を職員と一緒に考える環境を作り、実生活で実践していく。 ・ 集団療育を通して他者と関わる楽しさを知り、適切な言葉遣いや相手に伝わる話し方を習得していく。			
人間関係社会性				(a) 他者との関わり（人間関係）の形成 (b) 自己の理解と他者の理解 (c) 仲間づくりと集団への参加				(a) アタッチメント（愛着行動）の形成 人とのかかわりを意識し、身近な人と密着な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行う。 (b) 積極行動の支援 遊び等を通して人との関わりを体験することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。 (c) 感情表現及び自己表現能力の支援 感情表現を促す遊びや運動機会を創出させる遊びから、見えて遊びやつり遊び、ごっこ遊び等の遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。 (d) 一人遊びから集団遊びへの支援 周囲に子どもがいても関わりを促す、人遊びの状態から遊び遊びを行い、大人が介入して行う適切な遊び、役割分担したルールを守って遊ぶ遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。 (e) 自己の理解とコントロールのための支援 大人を介して自分のできごと、できないことなど、自分の行動の特性を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるように支援する。 (f) 集団への参加への支援 集団に参加するためのルールや理解し、遊びや集団活動に参加できるように支援する。				事前に視覚的な手帳かりを使って丁寧に説明し、お子さまが安心して集団活動に参加できるように支援します。少人数での体験やゲームなどの活動を通じて、社会性の向上を促します。またお子さまが自分や他人の感情を理解し、適切に表現できるように、職員がモデルを示します。 グループでの遊びやコミュニケーションを促す活動を通して、他者との関わりや自分の感情を表現し、社会的スキルを育てます。お友達との遊びの場面では、職員が関わりながら同じ遊びに興味を持て、人との交流を楽しめるようサポートします。ごっこ遊びや共同遊びを通じて、社会性を育む機会を提供し、職員が遊びに参加しながら行動やことばのモデルを示します。 [例] ・ タイムタイマー等を用いて始まりの時間、終わりの時間等の時間の意識を持つ。集団療育や個別療育などの一斉指示を通じて先を見据えた行動を行い、相手の気持ちや尊重した行動を取ると共にその場面に応じた行動が出来るよう促し、習慣化する。			
家族支援				・ 個別療育や集団療育にて行った活動の内容を連絡帳（お返し時）や、写真付きでサービス提供記録にてお伝えします。 ・ 6ヶ月に1回程度、モニタリングとは別に面談の機会を設け、保護者と共に共有していきます。 ・ 個別療育の経費の機会を作り、保護者に対して支援のポイントや関わり方のフィードバックを行います。				移行支援				・ 必要に応じて学校（園）に訪問し、児童との関わり方について情報共有、支援方針を計画します。 ・ 事業所での様子や他事業所や相談支援センター等に申し、訪問、電話等で伝え、日々の様子の情報交換を行います。 ・ 学校（保育園・幼稚園）への送迎時、先生と学校（園）での様子や事業所での過ごし方の情報共有を行います。			
地域支援・地域連携				・ 関係機関で役割分担し、情報を共有を行います。 ・ 連携会議を定期的に開催し、情報収集、役割分担に関して協議します。 ・ 各関係機関の情報を基に、具体的な場面での関わり方や、困りごとに関しての支援やポイントを共有します。 ・ セルフアプの力により活用が図られコミュニティの仲を築き、事業所が活動する会派に参画し、情報共有を行います。				職員の質の向上				プロッサムグループ本部にて下記研修実施 ・ スタッフ研修 ・ 専門職員によるスキルアップ研修 ・ 研修後フォロー ・ 身体拘束適正化研修 ・ 感情対応研修 その他 児発症ミーティングにて他教室との情報・意見交換実施			
主な行事等				・ 季節の行事 ・ 近隣公園や公園への外出活動											